

岡山医学会雑誌

第67巻3・4号(第713・714号)

昭和30年4月30日発行

616.995.122.21

岡山県下に於ける「マメタニシ」の分布及び 犬猫の肝吸虫寄生状況

岡山大学医学部寄生虫学教室(主任・山口教授)

稲 臣 成一
木 村 道也

〔昭和30年2月1日受稿〕

岡山県は元来肝吸虫の分布地として有名であるが「マメタニシ」の分布に関しては25年前に長野寛治氏(1927)の報告があり、更に稲臣(1950)は児島湾沿岸の「マメタニシ」の分布を詳細に報告している。併しその後我が国の日々の復興は目覚しく殊に農業の進歩は著しく、之に伴い「マメタニシ」の分布状況に甚だしい変動を生じ、その採集は甚だしく困難に立至り、こゝに改めて「マメタニシ」の分布及びその濃度を知る必要に迫られた。

1. 分布地域

過去の調査により推測された県南部一帯を調査し図に見られる如く、次の11ヶ所に分布している事を確認した。尚分布濃度指数は次の如くにして表示した。

分布濃度	1	20×25cm金網 毎5掬に	1ヶ
"	2	" 2 "	1ヶ
"	3	" 1 "	1~3ヶ
"	4	" 1 "	4~6ヶ
"	5	" 1 "	7ヶ以上

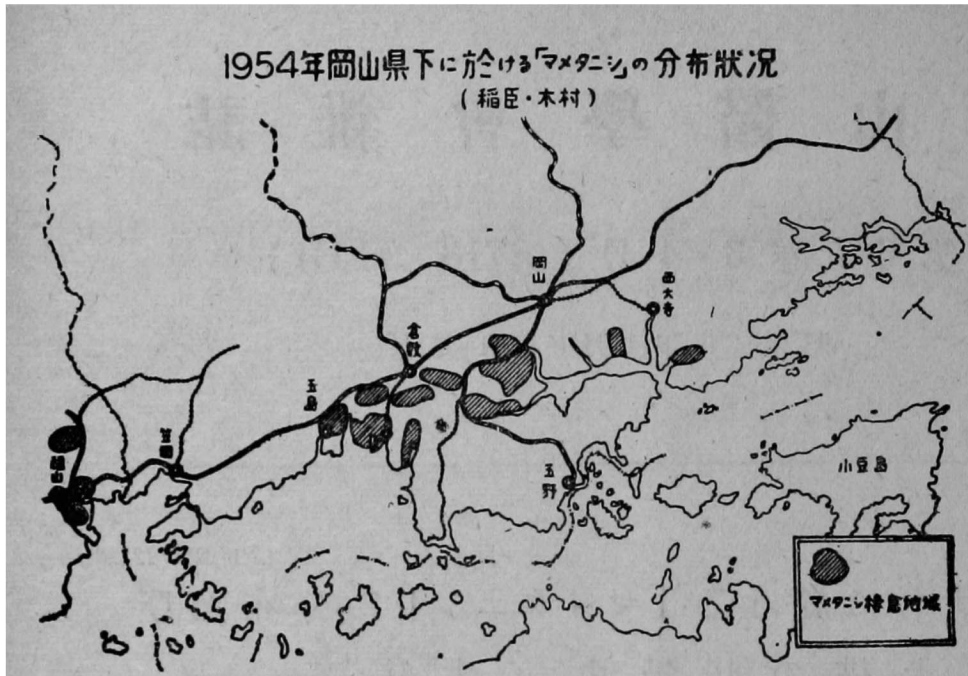
調査地域内の分布状況は次の如くである。

1. 邑久郡幸島村	2km ²	分布濃度 2
2. 西大寺市	1"	4
3. 都窪郡妹尾町地区	41"	3
4. " 茶屋町地区	16"	2
5. 倉敷市東部地区	6"	2
6. " 南部地区	6.5"	3
7. " 西阿知地区	2"	2
8. " 福田地区	5"	3
9. " 亀島新田	1.5"	4
10. " 鶴新田	4"	3
11. 玉島市	3"	2

之等の分布地域は何れも山陽線以南に限られ常に「セキシヨウモ」の繁茂し水量豊富な水清き小川であつた。

2. 現在と過去の分布比較

以上の分布状態を長野(1927)稲臣(1950)の調査に比較すると年毎に分布地域がせばめられている事が認められる。即ち過去に於て



としても卵を捕食することは考えられる。寧ろ「マメタニシ」の減少の原因は戦後目覚ましい発展をした農業、化学肥料更に戦後の人口膨張に伴う市街地の拡張は市街地排水及び工業排水の増加を来し、これによる用水の汚染が大いにあ

は山陽線以北にも相当数に棲息していたのが現在では全く見られない。殊に1950年には児島湾沿岸の新開墾地及び丘陵以外には殆んど分布していたのが今回の調査では全くせまくなり、図に示す如く妹尾区と茶屋町地区とに全く二分され、あたかも塩田の水が乾くが如くにて分布地域がせばめられている。

又更に岡山市南部では長野氏(1927)の調査で全地域に相当濃厚に分布していたようであるが、1950年には殆んど笹瀬川流域にのみ限られており、更に今回の調査では笹瀬川以東即ち岡山市では全く絶滅していることが明らかとなった。

又上道郡では三幡から九幡に互る開墾地に相当多数見られたのであるが、1950年にはその数は著しく減少し更に年毎に僅少となり、今回の調査では僅かに津田の極く小地区にのみ見られる状態にまで立至っている。

3. 「マメタニシ」の減少

長野氏は「マメタニシ」の減少は「アメリカザリガニ」によるとの説であるが、我々は「マメタニシ」を捕食する「アメリカザリガニ」を捕えたことがない。併し親貝を捕食しない

ずかつて力あるものと考えるべきであろう。

なおもし「アメリカザリガニ」を「マメタニシ」の天敵として使う為には現在でも水田よりの漏水の因となることが屢々であり、更に稲の若芽根を切る等の被害が相当多いので農家からの反対は必至であろう。

なおまた最近流行的に使われる「ホリドール」に対して「アメリカザリガニ」は0.0000005%で12時間で死ぬ位で水棲動物中でも一番弱いのではないかと思われる。因に「カワニナ」「マメタニシ」では同濃度で1週間「マルタニシ」では0.000001%で2週間で死に、更に鮒では0.00001%で3週間で死んでいる。

4. 「マメタニシ」分布地域に於ける犬猫に於ける肝吸虫の寄生状況

次に我々はこれら分布地域内の野犬、野猫に於ける肝吸虫の寄生状況を剖検により調査したところ、犬では126頭中26頭(20.63%)に、猫では213頭中97頭(45.54%)に寄生しているのを認めた。

撰筆にあたり恩師山口教授の御指導御校閲に深謝する。

文

- 1) 長野寛治：岡山県下に於ける肝臓「ジストマ」第1中間宿主「マメタニシ」の分布に就て，岡山医学会雑誌，444.

献

- 2) 稲臣成一・岡山県下吸虫類中間宿主の研究 (5) 同誌 687.

Department of Parasitology, Okayama University Medical School.
(Director: Prof. Dr. S. Yamaguti)

**Distribution of *Bulimus striatulus* var. *japonicus* and Incidence
of Natural Infection of Dogs and Cats with *Clonorchis sinensis* in
Okayama Prefecture.**

By

Seiiti Inatomi & Mitiya Kimura

Okayama Prefecture is noted as a distribution area of *Clonorchis sinensis*.

We have found K. Nagano (1927) and S. Inatomi (1950) to report on the distribution of *Bulimus striatulus* var. *japonicus*. But, lately, we have noticed a change in this distribution during undergo. Then, we have investigated the distribution of *Bulimus striatulus* var. *japonicus* at Okayama Prefecture in 1954. By this we found the reducing and restriction of the distribution area of *Bulimus striatulus* var. *japonicus* and *Clonorchis sinensis* of 20.63% from the dogs and 45.54% from the cats of this area.